

ふだんが「好き。」未来につながる河内長野

河内長野市 未来技術社会実装事業



1. 河内長野市の概要(地理・現状)



滝畑 光滝



南花台



天野山 金剛寺



滝畑ダム



関西サイクルスポーツセンター

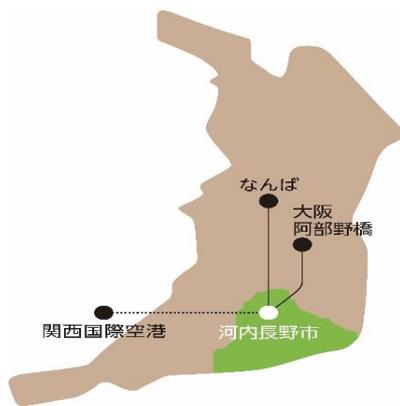


檜尾山 観心寺

面積:109.63km²(大阪府下3位)
人口:98,208人(本年4月10万人割れ)

【市の特徴】

- ・大阪府下33市中で最も人口減少・少子高齢化が進行
高齡化率 35.85%(33市中 1位)
人口増減率 -1.45%(33市中32位)
- ・犯罪発生率府下最小
- ・地盤が強いランキング関西1位
- ・文化財が多く令和元年・2年度 3つの日本遺産認定



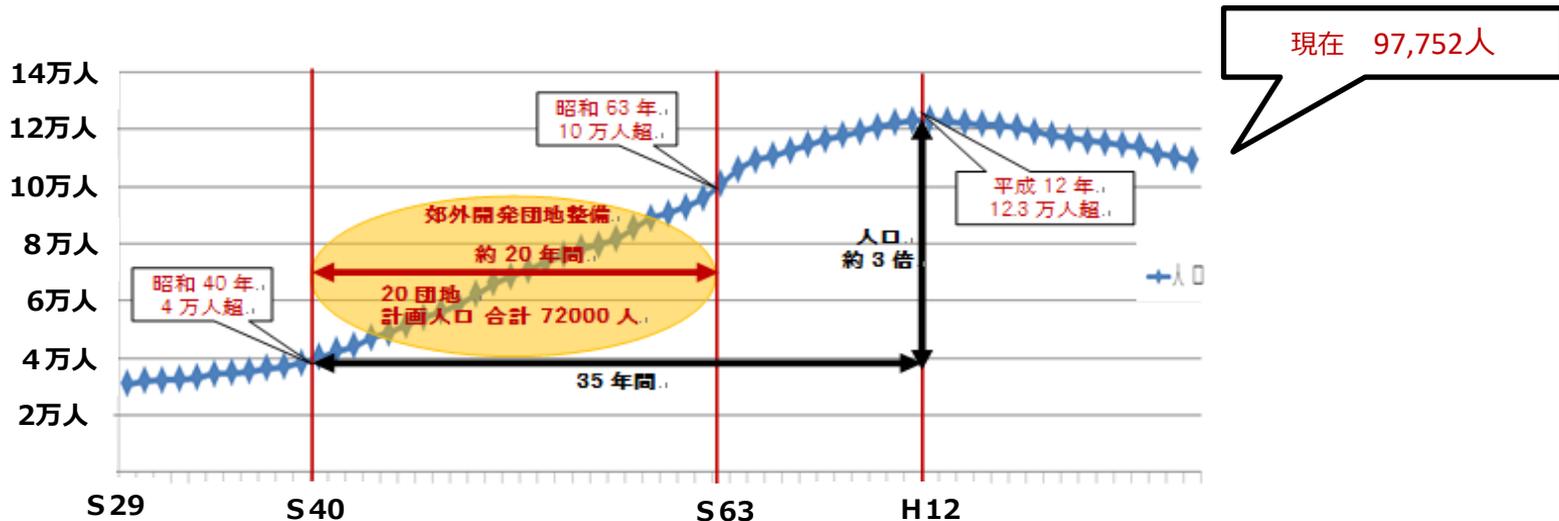
2. 河内長野市の課題

急速に人口減少・少子高齢化が進む

■昭和40年に4万人

■約20年間で、20団地(計画人口合計7万2千人)の開発団地を整備

■急激に人口が増加し、平成12年に12万3千人に到達



多くの開発団地を短期間で整備し、急激な人口増加を図った。

2. 河内長野市の取り組みについて

平成28年度よりスマートエイジング・シティの取り組み

住み慣れたまちで暮らし続けられるまちづくり

【大阪・関西万博】河内長野市のテーマ

ふだんが「好き。」 未来につながる河内長野

豊かな「ふだん暮らし」を生み出す、地域に寄り添った未来技術。自動運転による移動支援や、遠隔診療、指静脈による本人認証の取り組みなど、未来につながるワクワクする事業を紹介します！

1. 河内長野市の取り組み 未来技術社会実装事業

河内長野市では、地域の実情・課題を解決するため、未来技術社会実装事業を実施。最新技術をただ導入するだけでなく、地域住民の生活に直結する、地域密着の事業展開が本市の特徴です。

自動運転による「ラストワンマイル」の移動支援サービス

自動運転技術を活用し、地域の移動課題を解決。市独自の「のりあい」から「ふれあい」へ、をコンセプトとした移動支援を実現。地域ボランティアによる運転の「安全性の向上」や「担い手不足の解消」を目的とする。

生体認証に紐づいた「指先一本」の地域通貨促進

地域事業者や地域活動の活性化に、最新技術を活用。「指先一本」の本人認証で、手軽にまちづくりに参加できる環境を実現。小児から高齢者まで、みんなが使いやすいシステム開発を促進。

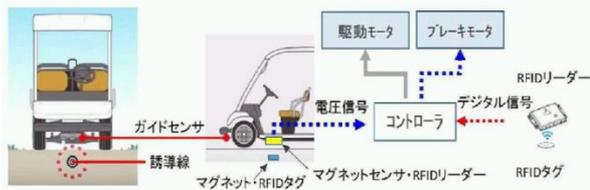
行政・医療・介護の多職種連携による遠隔診療

デジタル聴診器、スマートグラスを用いつつ、訪問看護師の支援で、自宅にいながら、待ち時間や他の利用者を意識せずにゆっくりと受診できる環境。在宅診療を補完し、住み慣れたまちで暮らし続けられるまちづくり。

自動運転による「ラストワンマイル」の移動支援サービス

- ・南花台地域、日東・大師地域の2地域で、自動運転(レベル2)の運行を開始
- ・「のりあい」から「ふれあい」へ、をコンセプトに、地域住民が運転手・添乗員をボランティアでおこなう
- ・車両を地域住民と一緒にペイントするなど、共助の移動課題解決に向けた取り組み

■電磁誘導式自動走行システム



万博当日は、車両を会場に！

生体認証に紐づいた「指先一本」の地域通貨促進

- ・「指先一本」で、何も持たずに買い物や地域活動に参加できる環境整備を目指す
- ・高齢者のラジオ体操や放課後児童会の出席確認の実証により、小児から高齢者までの活用実現を確認
- ・令和6年度は車両に取り付けた装置によるデジタル乗車券の実証を実施



日立指静脈認証装置 C-1



小学1年生女兒のC-1利用の様子

生体認証で本人確認
& デジタル乗車券



万博当日は、指静脈認証の体験会！

行政・医療・介護の多職種連携による遠隔診療

- ・デジタル聴診器、スマートグラスを活用した在宅診療を補完する遠隔診療
- ・訪問看護師(将来的には介護福祉士も)の支援による在宅でのオンライン診療を可能とする
- ・患者宅と医師を訪問看護師がつなぐ、先進的な都市部での実証
- ・待ち時間を気にせず、自宅でゆっくりと受診が可能
- ・河内長野市医師会、河内長野市社会福祉協議会の連携による事業推進体制を構築



スマートグラス

万博当日は、デジタル聴診器の体験会！